

廃棄物削減への取り組み

ゼロエミッション活動実行計画書

目的達成手段

各事業所で発生した廃棄物を産業廃棄物として、事業所外へ搬出する量を低減します。

- ① 廃棄物の有用化を検討します。(売却)
- ② 廃棄物の減量化を検討します。
- ③ 廃棄物の事業所内リサイクルを検討します。
- ④ 各事業所の情報を公開しあいます。
- ⑤ 各種収集情報の共有化をします。

注意事項：廃棄物の有用化にあたり、適正処理されていることを大前提とします。

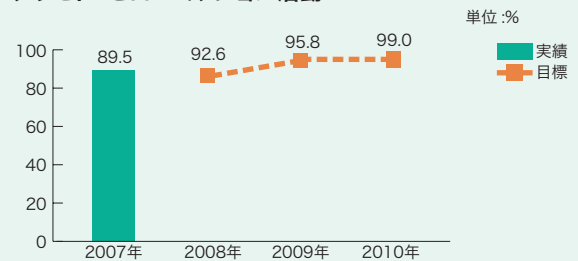
活動期間

2008年1月～2009年3月

ゼロエミッション定義

一般廃棄物、産業廃棄物、特別産業廃棄物を対象とし、その処分方法が、焼却の場合は、サーマルリサイクルされているものとし、埋立されている廃棄物のみが「再資源化されていない」とします。

クリモト・ゼロエミッション活動

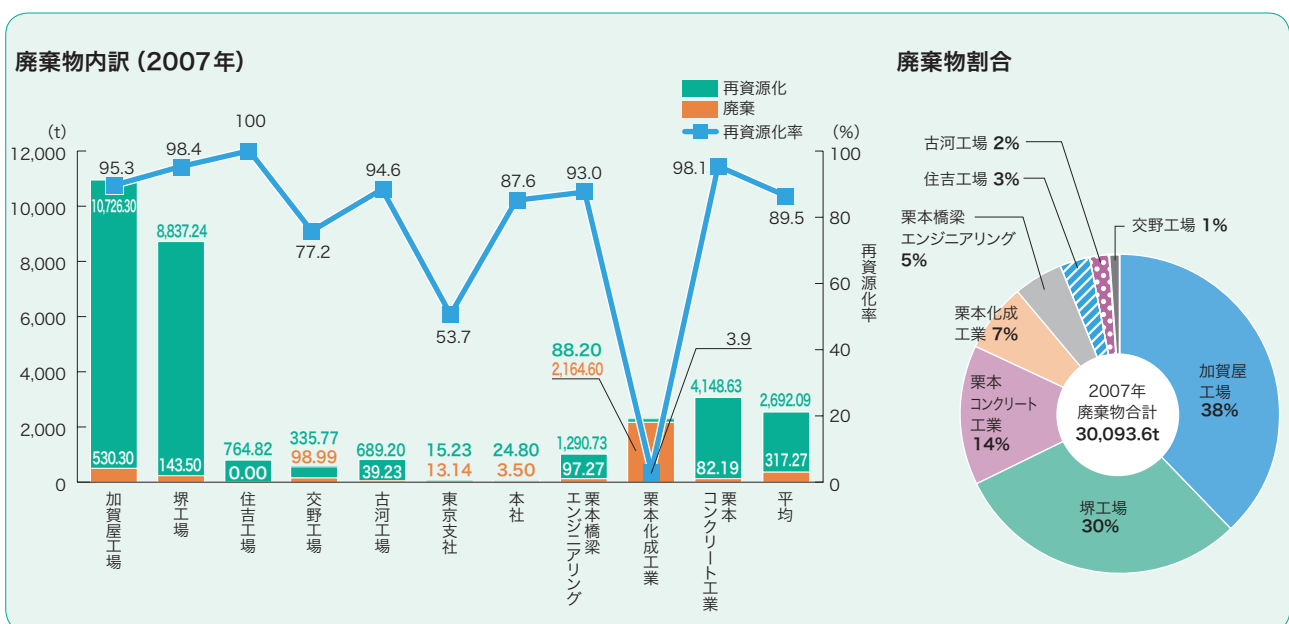


廃棄物量内訳

クリモトグループでは廃棄物を発生させないこと、使えるものは繰り返し使うこと、発生した廃棄物を再資源化することで循環型社会の実現を目指しています。廃棄物の種類により資源化量、再生利用率にばらつきがありますが、総合的

な廃棄物量削減に努めます。

2007年の廃プラの廃棄量が増加しているのは一括して梱卸を実施した結果です。



廃棄物排出実績集計

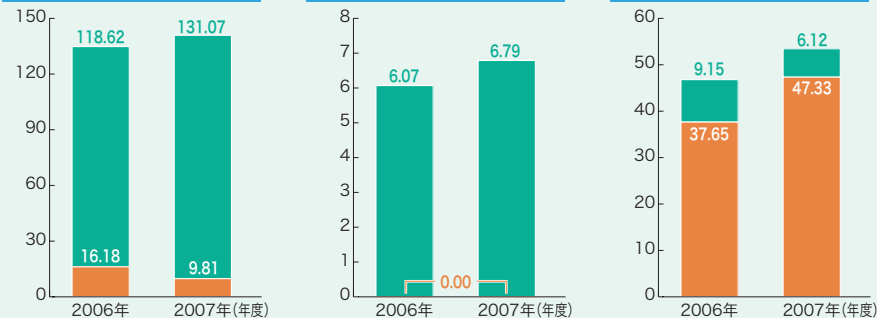
産業廃棄物 単位：t

再資源化 (緑色) 廃棄 (オレンジ色)



一般廃棄物 単位：t

再資源化 (緑色) 廃棄 (オレンジ色)



廃棄物排出実績の詳細

単位：t

		再資源	廃棄		
産業廃棄物	廃プラスチック	廃プラ、紙屑	8.72	グラスウール	108.71
		水性塗料カス	43.36	廃プラ	2,149.60
		廃プラ、廃ゴム	10.68	ビニール・プラスチック	14.00
		廃プラ	5.77	廃樹脂塗料	17.52
		計	68.53	2,289.83	
	金属くず	ダライコ	30.00	サイレントコア材	13.56
		ショット、研磨	979.00		
		ノロ、ジャミ銃	522.00		
		ショットスケール	527.06		
		GFスラグ	983.20		
ノロジャミ		95.00			
回収亜鉛滓外		106.06			
回収亜鉛滓内		18.70			
亜鉛塗料カス		15.52			
アルミ屑		0.92			
ステンレス屑		0.98			
銅、電線屑		11.26			
鉄、非鉄屑		498.72			
電線屑		0.60			
鉄屑		2,329.51			
計	6,118.53	13.56			
ガラス陶磁器くず	廃蛍光灯	0.14	砥石屑	76.00	
	計	0.14	ガラス繊維	46.67	
がれき類	工事セメントガラ	178.00			
	がれき	83.90			
	廃コンクリート	3,865.01			
計	4,126.91	0			
汚泥	モルタル汚泥	1,419.82	その他汚泥	143.50	
	計	1,419.82	143.50		
廃油	廃塗料	5.60	廃シンナー	97.27	
	廃油、油泥	10.76			
	廃水油	41.81			
	グリストラップ	6.74			
	廃塗料、廃溶剤	20.69			
	廃油	21.64			
計	107.24	97.27			
廃酸	フッ硝酸	1.98			
	計	1.98			

		再資源	廃棄		
産業廃棄物	鉋さい	水滓	2,928.00	鋳物砂	402.00
		脱硫滓	1,942.00		
		コーテッドサンド	472.00		
		鋳物砂	3,609.14		
		シェル廃砂	1,841.54		
		キュボラスラグ	2,832.14		
	計	13,624.82	402.00		
	ばいじん	キュボラダスト	872.46		
		計	872.46		
	その他	廃木材	76.08	木くず	2.75
雑芥		36.26	紙・木くず	44.00	
廃OA機器		1.79			
木くず		36.38			
一般産廃		286.00			
計	436.51	46.75			
紙	廃OA紙	18.10	段ボール、新聞	1.20	
	古紙、段ボール	8.28	シュレッター	8.61	
	紙類	90.24			
	段ボール、新聞	0.90			
	廃OA紙、新聞	10.41			
	段ボール	3.14			
	計	131.07	9.81		
	飲料容器	カン・ビン	4.81		
ペットボトル		1.48			
ビン		0.40			
缶		0.10			
計	6.79				
その他	事務所系廃棄物	3.95	事務ゴミ	27.30	
	軍手	1.17	事務所ゴミ、塵芥	12.00	
	プラスチック類	1.00	厨芥類	3.47	
	計	6.12	その他	4.56	
計	6.12	47.33			

		再資源	廃棄
合計		26,920.92	3,172.72

鉄道コンテナ利用による環境対策

以前より鉄管を輸送する際、鉄道コンテナの利用もありましたが、小口径管（長さ4～5m）では制約が多いため、一部を除き活発には行われていませんでした。最近13トン積み（長さ31フィート）という特大サイズが開発されたことにより、利用が増えています。

31フィートは、①交通事故の可能性も低く、騒音、振動が少くない。②モーダルシフト効果により、CO₂を削減できる、というメリットがあります。世間の評価も高く、他社に先駆けて

活用に努めるため、同コンテナの安定した調達を目指しています。本格化した平成18年下期では、月当たり30台利用しています。

